

福祉 ちば

No.140 2007.11.15発行



INDEX

- 新潟県中越沖地震特集2~ 3
災害ボランティアリポート
- 地域福祉フォーラム特集4~ 5
被災地から学ぶ防災（白井市）
大和田支会（八千代市）
- 情報FLASH6~ 7
こだわりの一品シリーズ 季節の花づくり8
八千代市身体障害者福祉会「はばたき職業センター」



刈羽村災害ボランティアセンターでの受付の様子

「新潟県中越沖地震」災害ボランティア 千葉県からは約350名が救援、復興に活躍

幾多の尊い人命が失われ、数多くの負傷者や家屋等への甚大な被害をもたらした「新潟中越沖地震」発生から早4ヵ月。震災がもたらした住民生活・地域経済への影響はいまだ計り知れないものがありますが、被災地の住民や地元行政機関、関係諸団体の復興に向けた地道な取り組みが実を結び、現地では今、ようやく復興の兆しが見え始めています。

今回の震災では、地震発生直後から被災地の社会福祉協議会に「災害ボランティアセンター」が設置され、

そこには全国から延べ2万5千名、千葉県からは約350名のボランティアが駆けつけ、被災地の方々の思いを大切にしながら、住民生活の再建・回復を目指した様々な支援活動が展開されました。

今回の特集では、現地で災害ボランティア活動に従事した3名の方々の報告を通じ、災害ボランティア活動の役割や活動に際して留意すべき点、そして平常時における地域づくり、ネットワークの重要性について考えてみたいと思います。



何よりも大切な「顔の見える」地域づくり

復興支援に加え、生活情報支援を

災害ボランティアセンターの役割

災害支援は、主に行政を主体とした支援と、近隣やボランティアなどによる支援で行われます。特に災害ボランティア活動は、国の「防災基本計画」に「災害ボランティア」と明確に記載され、被災地の復興支援に欠かせない存在となってきました。

「新潟県中越沖地震」における災害ボランティアセンターでは、被災者からのボランティアのニーズ受付やコーディネート業務のみならず、仮設住宅での生活支援や新たなコミュニティ形成に向けた住民交流の場である「茶話会」などの開催支援、相談窓口の紹介や生活マップの作成といった生活情報提供活動も行われました。

防災組織と地域との連携を深める

地域での取り組み

災害時には、被災者一人ひとりの生活課題が積み重なって地域課題となります。その課題解決には、ボランティアをはじめ行政、企業、自治会、消防団、民生・児童



仮設住宅敷地内に開設された集会所での「茶話会」

委員などあらゆる地域資源が連携・協働することで、効果的な支援活動が可能となります。

千葉県内では、小地域でのネットワーク活動において、さまざまな取り組みが展開されています。これらのきめ細かな協働事業から、「顔の見える」ネットワークを構築し、災害時には地域でお互いに守り、支援する活動が「地域社会づくり」に結び付いていきます。

以下、新潟県中越沖地震の際、千葉県から駆けつけ、災害ボランティアセンタースタッフとして活躍された3人の貴重な体験レポートをご紹介します。

新潟中越沖地震 災害ボランティアレポート

「被災者本位 地元主体 無理をしない」

佐倉市社会福祉協議会・地域福祉推進グループまちづくり推進班 谷野 宏輝



ボランティアが被災地を支える大きな力に

発災から1ヵ月以上経った8月27日から4日間、柏崎市災害ボランティアセンターのスタッフとして参加しました。

私たちが担ったのは、災害ボランティアセンターの仮設住宅相談窓口。建設された仮設住宅をまわり、入居されているみなさんに声をかけ、お話を伺う活動でした。

仮設住宅に入居されたみなさんは、住み慣れた我が家から避難所に、そして仮設住宅へと、生活の場、暮らしの場がめまぐるしく変わっています。これまでの隣近所とは離れた新たな生活で心身共に落ち着かない日々を送られていたことと思います。

私たちがスタッフとして加わった柏崎市災害ボランティアセンターには「ボランティア活動に参加したい」と地元をはじめ遠くから駆けつけた大勢のボランティアが、毎朝9時の受付前から集まっていました。

学生、会社でそろって参加、NPOや災害支援のボランティア、一見して建築関係のプロといった方々、親子そろって参加されたご家族にもお会いしました。こうし

て多くの皆さんが駆けつけることが、直接の支援活動だけではなく、被災された地域を支える大きな力になっていたのではないかと感じました。

地域を歩き、ニーズを拾い集める

ところで、災害ボランティアセンターに寄せられるニーズも、災害発生からの応急対応期、そして復旧・復興期と状況は変わり、それに合わせた支援が必要となります。

またニーズを待っているだけでなく、地域を歩きニーズを拾い集めていくのがボランティアセンターでもあります。災害が壊した「私たちの地域」をあらためて創っていく復興の営みのなかで、ボランティアセンターの活動は、家の片づけから地域の再生まで続く長い道のりになると思います。

福祉の目線で防災への取り組みを

社会福祉協議会は、日頃から「この地域で住み続けたい」という願いの実現をめざし、身近な地域のネットワーク

づくりに取り組んでいます。ご近所でのサロン活動や見守り活動などから、様々な社会資源のネットワークが生まれ育っているのです。この平常時の地域の「ネットワーク」こそが、非常の災害時に大きな力となるのではないのでしょうか。

また、日常の活動のなかに「もし大きな災害が起こったら」を持ち込んでみる。防災・減災を「いっしょに」考えることで、安心・安全な地域づくりにみんなで参加でき、それが福祉のネットワークにつながれば、福祉と防災の連携につながるのではないのでしょうか。

大切なことは、地域福祉も防災・減災に向けた活動も、

ともに「いのちと暮らしを守る」活動だということ。福祉課題を乗り越える力が、災害が起こっても復興し地域を再生していく力になると信じています。日常の地域活動では福祉と防災・減災、どちらが大切かではなく、私は福祉の目線で防災・減災に取り組んでいくことを実践していきたいと思います。

柏崎市災害ボランティアセンターで出会ったボランティアセンターの3原則は、被災者本位 地元主体 無理をしないです。ここからの学びを、多くの方と一緒に考え、普段の活動に活かしていきたいと思っています。

被災者の心境に配慮した支援活動

特定非営利活動法人 千葉レスキューサポートバイク



副理事長
岡田 徹



理事
清藤 伸

「柏崎市災害ボランティアセンター」に入る

新潟県中越沖地震により設置された「災害ボランティアセンター」を支援するため、8月12~19日(清藤12~14日、岡田15~19日)の間、柏崎市災害ボランティアセンター西山支所(清藤)及び柏崎市災害ボランティアセンター(岡田)にて活動を行いました。これは、我々の所属団体(千葉



ボランティアセンターにおける朝の準備をする岡田さん

RB)が登録している千葉県災害ボランティア連絡会に対する千葉県社協の応援要請に応えたものです。

現地では、被災地社協が中心となり、そこに全国各地から集まった各種団体のメンバーが交代で、大きなトラブルもなく活動されていました。また一部の被災地域では、地元青年会議所のメンバーやお盆休みを利用して帰省した被災者の身内の方なども復興支援に加わり、共に汗を流していました。

先手、先手の準備作業を心がける

我々は、それぞれの災害ボランティアセンターでマッチング班に配属され、毎日行われるセンター開設時間前に開催されるスタッフミーティングの後、ニーズ票内容の依頼者への確認や、活動中のボランティアへの電話連

絡係を担当。具体的には、ボランティア活動の前に、作業に必要な資機材、人数、駐車場の有無などを依頼者に電話して再確認をすることなどであり、当日午後の活動に対しては当日午前、翌日の活動については前日午後依頼者に連絡して確認を行うものでした。

被災者と電話で話す際には、相手の心境を考慮しました。猛暑の中で活動するボランティアに対しては、疲労や健康に留意するよう心がけました。そして、業務の中で気付いた点については班長に報告し、改善を提案、行政絡みのニーズに関しても、官民境界を踏まえた対応ができたと思いますが、多様化する被災地支援の難しさを痛感する一面でもありました。

今回の活動で感じたことは、我々も含めスタッフの多くが過去の水害や中越地震での支援活動を経験しており、人数・資機材・安全管理も十分であったこと。ボランティアさんもりピーターが多く、中越地震のときと比べかなり質が高くなっていること。災害ボランティアセンターには中越地震からの「仲間」がいて、改めて日頃からの顔見知りの関係が重要であることを実感しました。

運営は、資機材と作業の流れの把握が先決

災害ボランティアセンターの運営は、資機材が揃い、流れを掴めば“体力勝負”的な部分があり、後は被災者の利益とボランティアの安全を常に頭に置いておけば何とかなるものです。その運営の流れを把握するには、運営訓練のみではすべてカバーすることはできません。今後備えて、各種訓練や講演会などで知識を習得しつつ、お互いの顔の見える関係づくりを行い、実際の現場で経験を積むことも重要です。最後に、被災地の一日も早い“完全復興”を願っています。

語り合い、住民総参加で 幸せづくり

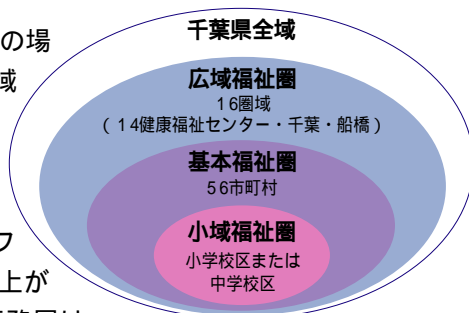
各地に広がる「地域福祉フォーラム」

「地域福祉フォーラム」とは、「誰もが」「ありのままに・その人らしく」「地域で暮らすことができる」新たな地域福祉像の実現をめざす“千葉県地域福祉支援計画”に盛り込まれた施策の一つ。これを実現するためには、行政と従来の福祉関係団体に加え、まちづくりの一翼を担っている警察や消防、商店街や企業、教育関係者、郵便局、さらには障害者や子供から高齢者までを含めたすべての住民が「地域福祉(地域社会)づくり」という目的のもとに力を合わせて結集し、行動することが大切です。

これを受け千葉県社会福祉協議会では、「基本福祉圏(市町村)」「小域福祉圏(小・中学校区)」を単位に住民等

による話し合いの場として、「地域福祉フォーラム」の設置促進に取り組み、現在合わせて70フォーラムが立ち上がっています。事務局は、

各市町村の社会福祉協議会、各地区社会福祉協議会や地域で福祉に取り組むNPO団体などが担っています。



知恵と工夫で被害を最小限に!

「被災地から学ぶ防災」 白井市

防災意識と住民の結束が「減災」のポイント 地域福祉フォーラム「被災地から学ぶ防災」(白井市社会福祉協議会主催)が、10月14日白井市保健福祉センターで開かれました。会場には一般市民をはじめ町内自治会役員、自主防災組織の担当者、消防団ほか約40名が出席し、災害の被害を最小限に食い止める“減災”について、被災地における地域住民の連携の必要性を訴える清藤伸氏の講演に聞き入っていました。

クイズもまじえ、防災を楽しく解説

講師を務めた災害ボランティアの清藤伸氏は、阪神淡路大震災を機に救援活動への関心を高め、新潟県中越地震や中越沖地震などのボランティア活動に参加。被災地での活動体験談には説得力があり、クイズも織りまぜての楽しい内容。「自宅にいて、大きな地震が発生したら?」の答えは「状況にもよるが、初期消火にこだわらず、逃げることも大切」。また「わずか50cmの高さの津波でも、大人がさらわれる恐ろしさがある」と強調しました。

マンション自治会の防災担当役員として参加した遠藤久さん(47歳)は、講演終了後「防災訓練や防災用品設置などに取り組んできたが、今日は被災地のスライドを見、講師の話聞いて、市民すべてが防災意識を持たなければ…」と改めてその大切さを痛感した。

防災には、自分や家族の身を守る方法を身につけるとともに、隣近所“顔の見える”関係づくりが欠かせません。白井市は高層マンションの建設で転入者が増え、地域のつながりが希薄になりがちな土地柄。それだけに参加した町内自治会の防災担当者の関心は高く、熱心にメモを取る姿が見られました。



防災について考える講演会

また会場では簡易防寒シート、ディスプレイャー(簡易担架)をはじめ防災グッズも展示。25年間保存可能なビスケットの試食もあり「甘味が抑えてあって食べやすい。お年寄りにもいいね」といった感想が聞かれました。

「まず、語り合う機会をもっと増やしたい」

白井市の「地域福祉フォーラム」への取り組みについて、中心的役割を果たしてきたのは、白井市社会福祉協議会の廣田優子事業班長。地域住民のつながりの薄いことが問題となっていることから、「気軽に語り合える近隣社会づくりに、何をしたらいいか?」を考えた結果、新潟県での2度わたる地震災害で関心も高まっている 防災をテーマに取り組みを始めたのです。

まず、毎月ボランティアのつどいに参加した個人ボランティア、町内自主防災会、NPOなどに呼びかけて「準備委員会」を結成し、今年6月に千葉県の交付決定を受けて、千葉県が進めている「地域福祉フォーラム」の基本福祉圏の指定を受け、同時に震災でライフラインがマヒ

する状況を想定した「井戸マップづくり」をスタートしました。

今回の「被災地から学ぶ防災」の講演会は、その基本である防災の勉強会で、来年1月に「家具の転倒防止金具の取り付け講座」を開催します。廣田さんはこれからも地域福祉フォーラムを活用して、住民の語り合う機会や場をもっと増やし、「同時に防災意識を高めていければ…」とその夢を語っています。

災害ボランティア育成につなげたい！

白井市社会福祉協議会・米井楯一会長の話 = 白井市社協では、平成12年頃から防災ボランティア育成とともに、地域の方たちに防災意識を高めてもらう取り組みを行ってきました。今回の講演の貴重なお話は、みなさんの活動の参考になったのでは…。ぜひ地元を持ち帰って伝えて欲しいですね。

ゲーンと広がった住民ふれあいの輪

大和田支会

地域ぐるみ 人のつながり を大切に 八千代市社会福祉協議会大和田支会（御山正治会長）主催の世代間交流イベント「大和田支会まつり」が10月6日市立大和田小学校体育館で開かれました。この支会まつりは、従来世代間交流の色彩が強かったのですが、今回は千葉県が提唱する「地域福祉フォーラム」の趣旨に沿って実行委員会を開催し、幅広い住民、団体が参加する地域ぐるみイベントとなりました。

八千代市

協力し合って伝言ゲームや福祉 × クイズに挑戦、ステージと参加者が一体となって楽しみました。

またこの手づくりイベントを支えたグループの中には、大和田中学校生徒19名をメンバーとする“まごころ配達人”もあり、受付からお茶の接待まで1日中大活躍。「高齢者とふれあう機会が少ないので参加した」という3年生女子生徒の将来の夢は「福祉の仕事」でした。

幅広い団体、個人を結集して

この日会場には、70歳以上の高齢者が80名（うち90歳以上3名）と地域のボランティア、子育て中の母親、PTA、市立大和田小学校、大和田中学校の児童、生徒など84名が参加。クイズ、ゲーム、音楽、軽体操を通じてふれあいを深め、地域に住んでいる人との交流のきっかけづくりができました。

今回の「大和田支会まつり」の大きな特徴は、千葉県が推進している「地域福祉フォーラム」（小域福祉圏）



の一環として開かれたこと。これまで実行委員会は、支会を構成している福祉委員が企画、運営を担ってきました。しかし、今回はより幅広い分野から企画に参加してもらおうと、大和田地区在住の障害者の方たち、大和田小、大和田中の教育関係者やPTA、NPOや子育て支援グループにも実行委員のメンバーとして活動してもらいました。

こうした試みから生まれたのが、新しいプログラム企画「ふれあいタイム」。聴覚・視覚障害者や手話サークルの方たちがステージに立ち、お年寄り子どもたちも

世代を超えて集うことが何より大事

八千代市には20の支会があり、大和田支会は市内で8番目の支会として平成8年5月に発足。平成13年から、八千代市が主催していた「敬老会」を受託、運営してきたことが支会まつりの始まりです。しかし、3年前に市の事業見直しで「敬老会」が廃止になり、その後、世代間交流事業としてスタート。今回は特に、千葉県の進める「地域福祉フォーラム」の理念を意識しての企画内容にしたということです。

関係者の一人として「支会まつり」に参加した八千代市社会福祉協議会地域振興課地域係の新井陽一さんは「子どもから高齢者まで、さまざまな世代の人たちが顔を合わせ、理解し合うことがまず大事なことです。それがやがてフォーラム本来の姿である地域における福祉のあり方や取り組みを考えていく“話し合いの場、協働の場”にまでステップアップできれば…」と話していました。

地域は絶好の“福祉教育の場”

大和田支会まつり実行委員長・大澤こずえさんの話



私たちは世代間交流を掲げる前から、高齢者と子どもたちのふれあいを当たり前のことと捉えて取り組んできました。学校のみ福祉教育には限界があります。子どもたちには、地域の人たちとの交流を通し“命のつながり”を学び、自分が社会の役に立っていることを体で感じて欲しいと思っています。

**第2回
福祉のしごと就職フェア in ちば**

社会福祉施設等へ就職を希望する方を対象に、求人のある福祉施設・事業所等と個別に面談を行います。また、職種ごとの相談コーナーが設けられます。

日時 / 平成 19年 12月 22日 (土)
11: 00~ 15: 30(10: 30~ 受付開始)
場所 / 幕張メッセ国際会議場 (千葉県美浜区中瀬 2- 1)
対象 / 社会福祉施設等に就職を希望する方 (入退場自由)
交通 / JR京葉線「海浜幕張駅」より徒歩 5分

**福祉のしごと土曜面談会
ミニフェア**

社会福祉施設等へ就職を希望する方を対象に、求人のある福祉施設・事業所等と個別に面談を行います(主に随時募集求人)。

参加ご希望の方は直接会場にお越しください。

日時 / 平成 20年 2月 2日 (土)
12: 00~ 15: 30(11: 30~ 受付開始)
場所 / 千葉県社会福祉センター研修室 (千葉市中央区千葉港 4- 3)
交通 / JR京葉線「千葉みなと駅」より徒歩 10分。JR総武線「千葉駅」より徒歩 15分。千葉都市モノレール「市役所前駅」より徒歩 3分
問合せ / 千葉県福祉人材センター
TEL 043- 248- 1294
FAX 043- 242- 0774

仕事との出会い求めて650人が参加

第1回福祉のしごと就職フェア in ちば

「第1回福祉のしごと就職フェア in ちば」が、今年も9月2日(日)に幕張メッセ国際会議場で開催されました。

当日は、千葉県内の社会福祉施設等への就職希望者650人が参加しました。



参加者の80%は来春卒業予定の学生で、開始前には列をつくりました。参加求職者は減少傾向にありますが、目的意識を持った積極的な面談者が多かったようです。

参加事業所は143ブース、求人数1543名と過去最大規模となり、求人の傾向は例年通り、介護職をはじめとした高齢者福祉の事業所が70%と、

圧倒的に多くなりました。

同時開催の就職活動に役立つセミナーは、「社会人に必要な接客マナー」を株式会社千葉銀行人事部の萩原大樹氏に、また「就職活動のポイント」を独立行政法人雇用・能力開発機構千葉センターの野口晃氏にご講義をいただきました。参加した20代女性からは、「これから何をやればいいのかハッキリして助かります。ありがとうございます



いました」と感想をいただきました。

なお、「第2回福祉のしごと就職フェア in ちば」は、12月22日(土)幕張メッセ国際会議場で開催する予定となっております。

お気軽にご相談ください

社会福祉施設経営相談

福祉施設運営に係る法律、会計・税務、労務などについての相談に応じています。相談時間は月~金曜日の9:00~ 17:00(祝日・年末年始は除く)。あわせて、右記のとおり専門家による相談も実施していますので、積極的にご利用ください。

《千葉県社会福祉施設経営相談室》
直通電話 043- 245- 4450
不在のときは 043- 245- 1104



	法律相談	会計相談	労務相談
12月	12日(水) 26日(水)	3日(月) 17日(月)	5日(水) 19日(水)
平成20年 1月	9日(水) 23日(水)	7日(月) 21日(月)	8日(火) 16日(水)
2月	13日(水) 27日(水)	4日(月) 18日(月)	6日(水) 20日(水)
3月	12日(水) 26日(水)	3日(月) 17日(月)	5日(水) 19日(水)

* 10:00~ 正午 (電話予約可)

みなさん、「生活福祉資金」をご存じですか?

社会福祉協議会では民生委員と連携して、比較的所得が少ない世帯・障害者の世帯・高齢者の世帯に対して「生活福祉資金」の貸付をおこなっています。

【資金種類(例)】出産費、葬祭費、転宅費、福祉用具購入費、障害者のための自動車購入費、住宅の増改築または改修のための資金、高校・大学・専門学校等の修学費および入学の際の支度費、療養費、介護等費、被災した際の再建資金、技能習得のための資金、緊急小口資金、離職者支援資金、長期生活支援資金等

※貸付条件(貸付対象、貸付限度額、返済期間、利子、連帯保証人の有無等)は資金種類ごとに異なります。
※貸付制度ですので返済の義務があります。なお、貸付審査の結果貸付に至らない場合もあります。

資金についての相談窓口/お住まいの市区町村社会福祉協議会または民生委員へご相談ください。
千葉県社会福祉協議会 ☎043-245-1551



架空請求、悪質商法、ネット関連トラブル、etc...

ご利用ください！消費者問題出前講座

あなたの周辺で被害に遭って悩んでいる方、情報がほしいと訴えている方はいませんか？全国消費生活相談員協会の会員が、講師として全国どこへでも参りますので、積極的にご活用ください。

講師料/無料(資料は用意します)

*手話通訳士が必要な場合は、申込団手で手配と費用の負担をお願いします。

対象別講座

- ・高齢者や障害者、その周りの方々向け講座(介護ヘルパー、民生委員等)
- ・若者(幼稚園から高校生)、保護者向け講座
- ・市民講師育成講座(消費者トラブルの被害防止のために、地域でボランティア講師を行うための講師育成講座)

受講人数 / 1講座 原則 20名程度

講座実施時間 / 原則 1時間

会場 / 無料で借用できる会場の準備をお願いいたします。

申込受付 / 平成20年2月20日まで

講師派遣 / 平成20年2月29日まで
申込み・問合せ / (社)全国消費生活相談員協会事務局

〒108-8566 東京都港区高輪3-13-22 国民生活センタービル内

TEL 03-3449-2749(出前講座専用・月~金 10:00~17:00受付)

FAX 03-3448-9830

平成19年度 第1回千葉県地域福祉フォーラム

「千葉県地域福祉支援計画」の中見直し作業とも絡め、今後の地域のあり方を展望し、地域の福祉力向上のための活動に取り組む方々から現況報告をいただくとともに、地域の福祉課題の解決策や今後の地域づくりに向けた方策等について意見交換を行います。

日時 / 12月17日(月)

12:45~17:00(正午に受付開始)

会場 / 千葉県労働者福祉センター(千葉市中央区千葉港4-4)

内容

基調説明 (13:15~)

- ・新たな地域社会づくりに向けての協働とネットワーク(千葉県地域

福祉計画の見直しを絡めて)
千葉県健康福祉部健康福祉政策課課長 野村 隆司氏

リレートーク型シンポジウム

(13:35~)

第1部 コーディネーター=千葉県地域福祉フォーラム座長(社会福祉法人生活クラブ理事長) 池田 徹氏

シンポジストは、千葉県手をつなぐ育成会 竜田 香子氏、松戸市常盤平団地自治会長 中沢 卓実氏等。

第2部 コーディネーター=千葉県地域福祉フォーラム座長(習志野市社会福祉協議会会長) 宮島 林景氏

シンポジストは、柏市民生委員児童委員協議会会長 小竹 恵子氏、市原市社会福祉協議会辰巳台支部 深谷 みどり氏等。

オプション企画 (17:20~)

- ・地域づくりに向けての“協働”のための交流会

主催・問合せ・申込み先

千葉県地域福祉フォーラム事務局(千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部)

TEL 043-245-1102

FAX 043-244-5201

千葉県共同募金会からのお知らせ

「平成19年度(60周年)赤い羽根共同募金運動」へのご協力をお願いします!

昭和22年から始まりました共同募金は、おかげさまで今年60周年を迎えました。この間、県内で集まりました総額281億円を超える寄付金は、県内の福祉施設・社会福祉協議会・福祉団体(NPO・ボランティア団体等も含む)などの行う民間社会福祉事業を、資金面から支えてまいりました。

共同募金は、多様化し拡大する県内の福祉をこれからも応援し続けます。「地域の福祉、みんなで参加」のスローガンのもと、今年も「赤い羽根共同募金」へのご協力をお願いします。

運動期間:平成19年10月1日

~12月31日



TEL 043-245-1721

<http://www.akaihane-chiba.jp/>

ありがとうメッセージ

昨年ご協力をいただいた「赤い羽根共同募金」を今年助成した施設から、感謝の声が届いています。

「皆さまからのご寄付により、6人乗りの2トトラックを購入できました。数人での作業場への移動も、機械器具を載せたまま車1台で出かけられるようになりました。」

暑い日、寒い日もあり大変ですが、元気のよいエンジン音を皆さんからのエールと思い、頑張っています。本当にありがとうございました。知的障害者授産施設『中里ワークホーム』(館山市中里291)



こだわりの一品シリーズ
季節の花づくり

シクラメン、パンジー、ペコニアなど家庭の窓辺や食卓の片隅、お店のショウウィンドウに置かれ、四季折々暮らしに豊かな彩りを添える鉢植えの草花。それが「はばたき職業センター」のこだわりの一品です。身体に障害のある利用者が、心をこめて育ててきただけに、お客様からは「苗も丈夫だし、花も長持ちする」と大評判です。

障害者の「働きたい」の声に答えて

「はばたき職業センター」は、障害のために一般企業などへの就職が難しい方を対象とした「(旧)身体障害者通所授産施設」。入所にあたっては、利用者の「どんな仕事をしたいか?」を中心にじっくり話し合っ

て個別支援計画をつくり、作業種目の「園芸科」「印刷科」および「簡易作業」の中から1つを選んでもらう仕組み。訓練で技能を身につけ、「一般企業に就職したい」と希望すれば、そのあっせんを積極的に進める一般就労支援もあり、また、利用しやすい職場にするための利用者自治会「絆の会」の設置や利用者自身によるイベントの企画運営などを通じて、



シクラメン、パンジー、ペコニア...
苗も丈夫で、花も長持ち と好評

社会福祉法人 八千代市身体障害者福祉会
はばたき職業センター



社会性を養う 日常生活支援 もしています。現在利用者は、20~60歳までの男女20名。これに対し7名の職員が支援にあたっています。

年間5万鉢を超える販売実績

四季の花づくりは「園芸科」の仕事。利用者は、施設内のビニールハウスで年間を通して、多種多様な品種の栽培に奮闘中。

これらの花は、センターでの販売はもとより、市内のショッピングセンターや道の駅・八千代ふるさとステーションの「朝顔市」などに店販売したり、一般企業や公共施設周辺の花壇への植え込みの仕事もあり、近年は年間5万鉢を超える販売実績を挙げるほどに規模を拡大しました。

自然に優しく、心のこもった栽培

「園芸科」のモットーは「自然に優しい、心のこもった栽培」で、一度使った土は、

回収、滅菌して再度利用するというリサイクル方式を採用。温室管理でも、花の持つ生命力を上手に生かす手法を厳守しています。これによって、元気で長持ちが実現するといえます。

将来は在宅障害者に 作業の出前 も
はばたき職業センター施設長・阿部裕一さんの話 = 障害者の社会参加と自立を基本理念に「働きたい」という思いにどう応えていけるかがセンター最大のテーマ。今後は、現代の若い利用者が魅力を感じる新しい作業種目の導入、在宅の身障者でも働く喜びを味わえる「作業の出前」もできればと思っています。



〒276-0015
千葉県八千代市米本 2429-10
TEL 047-488-8813 FAX 047-488-8384
http://habatak-i-yachiyo.hp.infoseek.co.jp/
Mail habatak@m.td.biglobe.ne.jp

編集後記



最近では、自分たちの手で「まちづくり」をしていく動きが活発になり、多くの方が「まちづくり」に関心を寄せています。地域に対する一人ひとりの思いが、地域を燦然と輝かせながら活性化させていくのではないかと思います。(安藤 豊)

「自然の中の宿」久留里荘をご利用ください。

〈宿泊料〉(単位:円)				〈休憩料〉(単位:円)			
利用者区分	宿泊料	朝食料	夕食料	合計	利用者区分	休憩使用料	
60歳以上の方	1,920円	830円	2,070円	5,820円	60歳以上の方	お一人様1日 700円	
一般利用の方	1,830円	870円	2,170円	6,870円	一般利用者	お一人様1日 1,050円	
小学生	1,920円	830円	2,070円	5,820円	小学生	お一人様1日 620円	
幼児(4歳以上)	1,460円	実費	実費	1,460円 <small>(土曜費)</small>			
幼児(4歳未満)	無料	実費	実費	実費			

久留里荘

〒292-0438 千葉県若津町向陽1632 TEL 0439-27-3150 FAX 0439-26-2776 http://park21.vakwak.com/~kirurisoi/